

酒蔵数の減少

酒蔵の数は減少傾向

1ヶ月に2.9者の酒蔵が廃業している計算となる

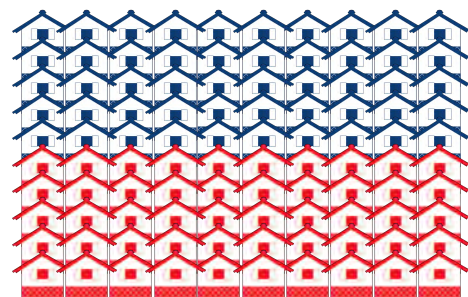


酒蔵が抱える経営難

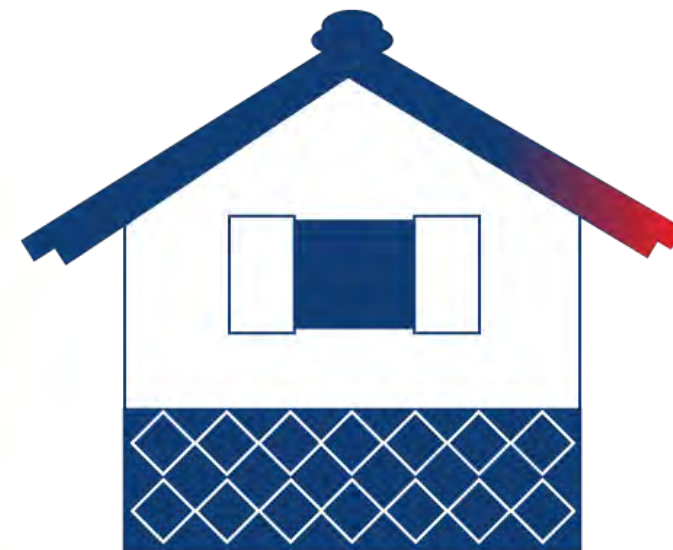
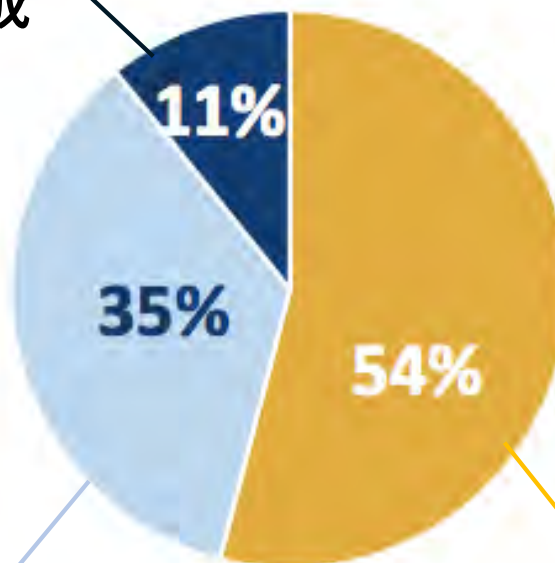
小規模な酒蔵（製成量200キロリットル以下）の半数は低収益
 市場の製成量の半数以上を11社で賄っている

1100蔵で**11%**を製成

49%が低収益



製成量200kl以下の小規模の酒蔵



製成量5,000kl以上の大規模の酒蔵

11蔵で**54%**を製成

8%が低収益

295蔵で**35%**を製成
16%が低収益



製成量200kl-5,000klの中規模の酒蔵

低収益企業とは、税引前当期純利益が0から50万円未満の企業をいう。

出典：国税庁「清酒製造業の概況」(2016年)

日本酒業界への新規参入

異業種からのM&Aや酒蔵買収

元証券マンが日本酒に惚れ込み、若干24歳にして自力で資金調達し天領盃酒蔵を買収。蔵元に就任(2018/3)



御湖鶴(菱友醸造)の美味しさを覚えていた運送会社が自己破産した蔵を引き継ぎ、醸造開始(2018冬)



勢いを増す日本酒ベンチャー

清酒の枠にとらわれない斬新な酒を造る(株)WAKAZE。三軒茶屋店ではどぶろくを醸造(2018/7オープン)

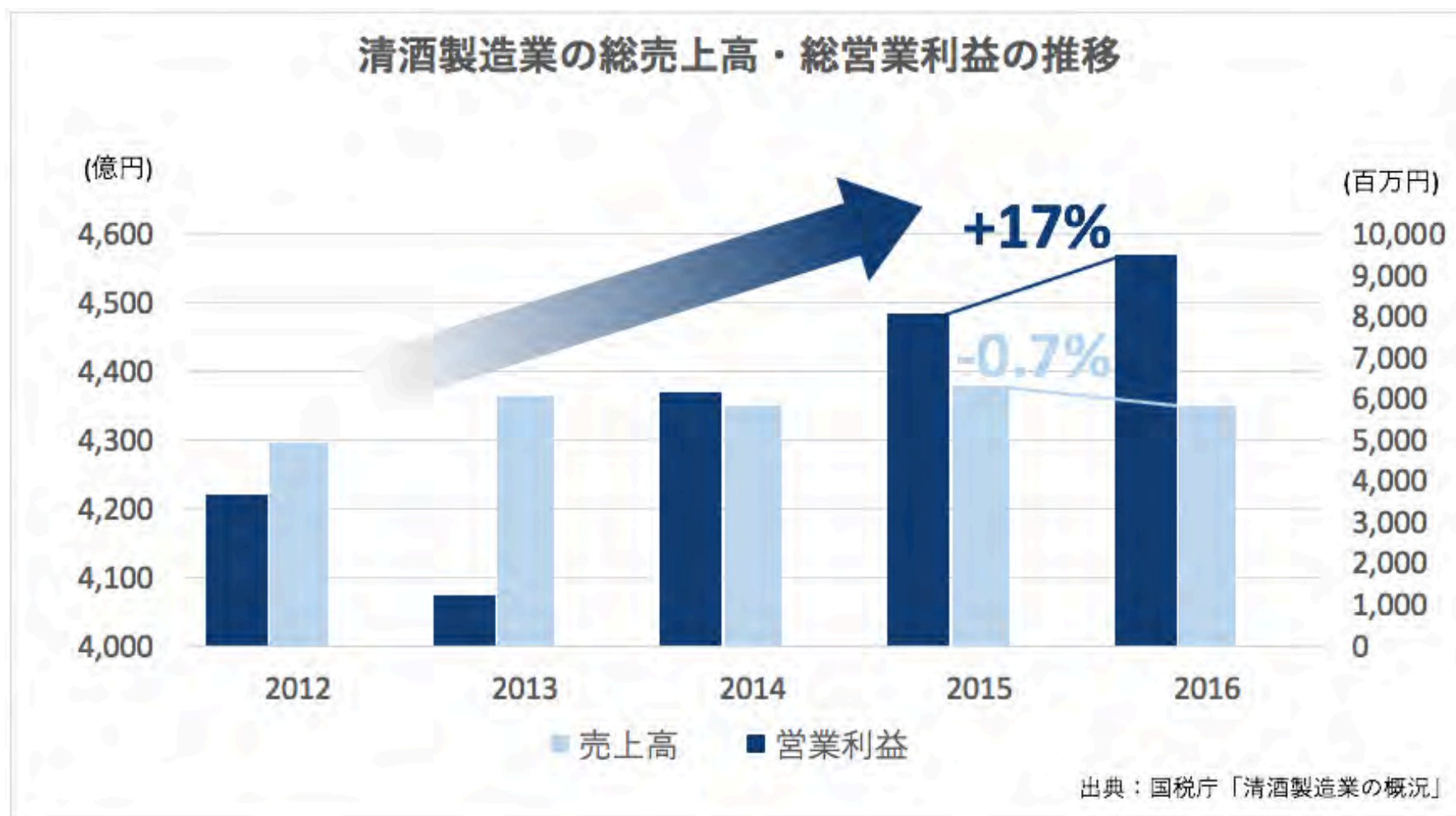


AIが好みの日本酒を判定するなど、酒屋&バーを中心に革新的なサービスを展開するミライシュハン(株)



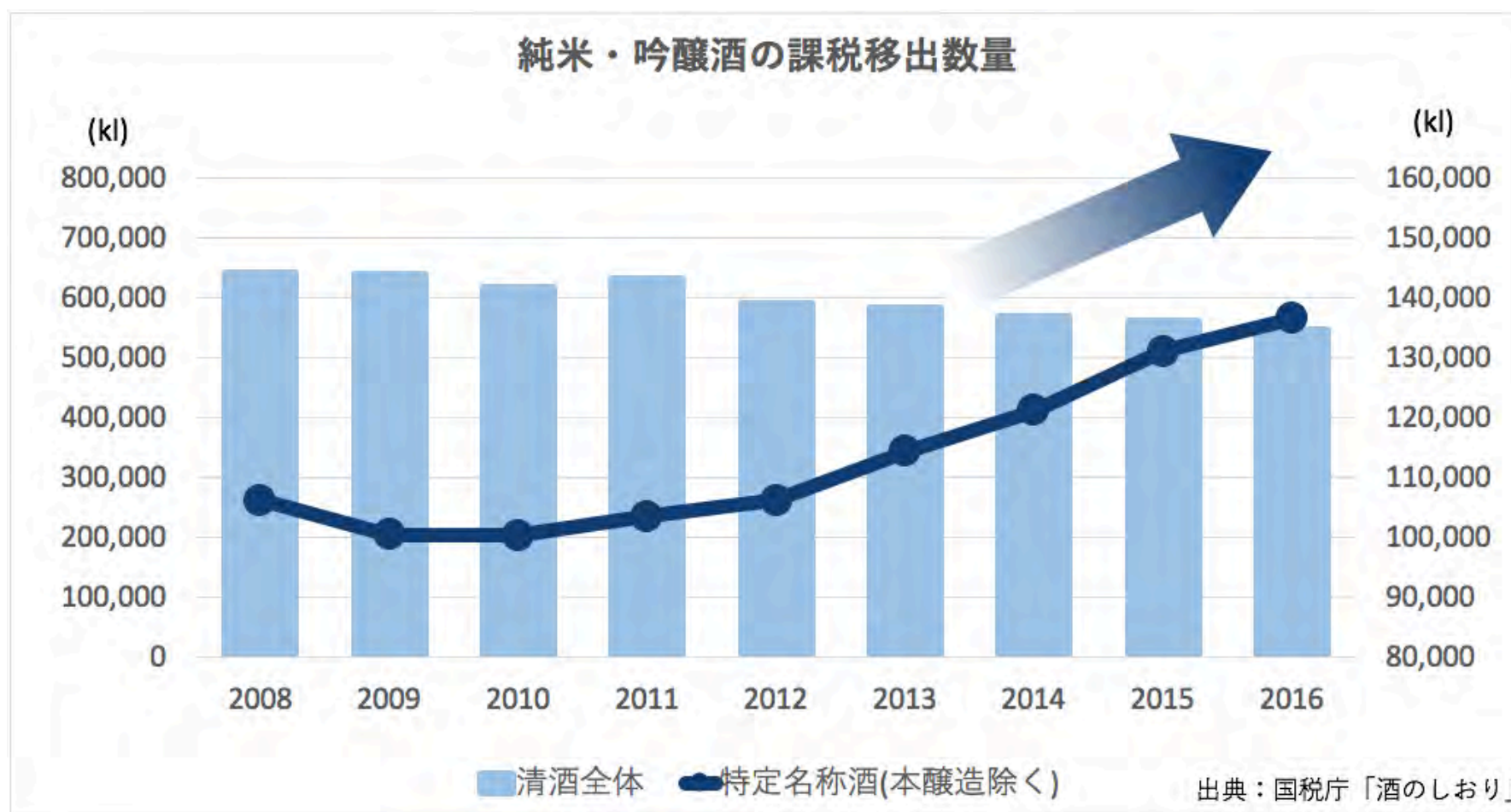
酒蔵全体での利益増加

酒蔵全体の総売上金額が低迷しているが、
営業利益は近年、大きく成長している



高価格帯市場の伸長

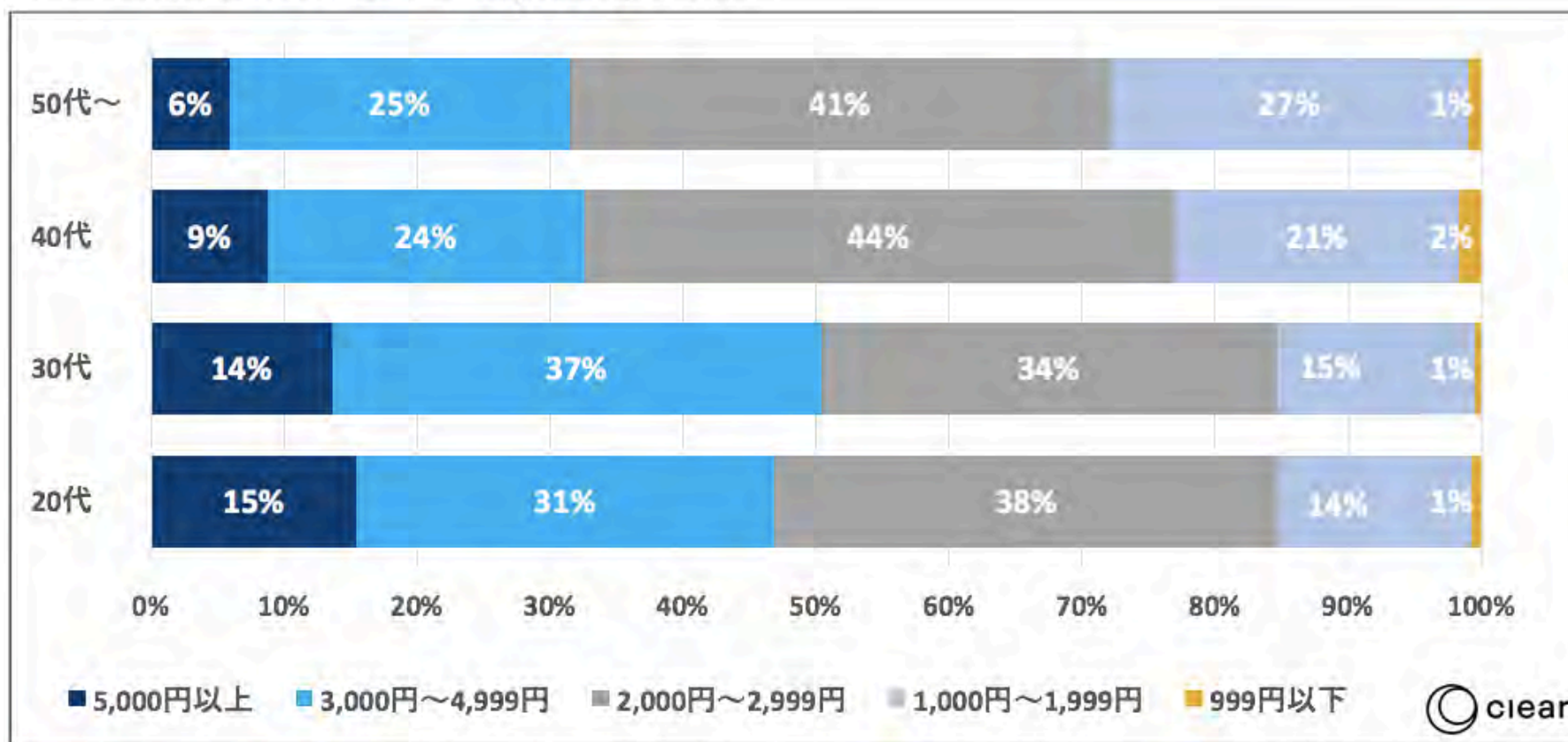
清酒全体の課税拠出数量は減少しているが、
高価格帯である純米酒・吟醸酒に限っては増加している



若年層の高価格帯日本酒への関心

株式会社Clear独自の調査(別途資料参照)によると、日本酒購入の予算は若年層の方が高い。
若年層の方がより高価格帯ニーズがあり、日本酒に対するプレミアム思考が高まっている

ギフト用に購入する日本酒(720ml)の予算



高価格帯日本酒の例

入札会で市場価格50万円「無二」

黒龍酒造による氷温熟成させた最高級の純米大吟醸酒
当初の設定を上回る金額で入札された(2018/6)



精米歩合1%、10万円「光明」

純米大吟醸のみを醸造する楯の川酒造が75日間かけて
精米し、高い技術で醸造した日本酒(2017/10)



1万円以上(720ml)の清酒のみで争う コンペティション

市販酒を対象にした「SAKE COMPETITION」で
2016年から「Super Premium部門」がスタート。
2018年には48点が出品された。

< 2018年の入賞結果 >

- 1位：「醸」(10,800円) せんきん／栃木県
- 2位：「白鶴 超特選 天空 純米大吟醸 白鶴錦」(10,800円)
白鶴酒造／兵庫県
- 3位：「太平山 純米大吟醸 天巧 20」(10,800円)
小玉醸造／秋田県

2018年まとめ・2019年 市場予測

1. 消費者の嗜好が多様化。日本酒全体の売上が低迷
2. 日本酒を製造する酒蔵の減少と、新規参入企業の台頭
3. 純米・吟醸酒の売上が伸び、高価格帯市場が形成されつつある

2019年は、これまでの流れが加速 高価格帯市場の形成がさらに進む

【新規参入】

2018年に酒サムライに就任した橘ケンチさん。新政とコラボするなど活躍に期待



【高価格帯市場】

酔鯨酒造がプレミアム酒専用蔵を建設。2018年秋から醸造開始・流通し始める。



4) 海外市場

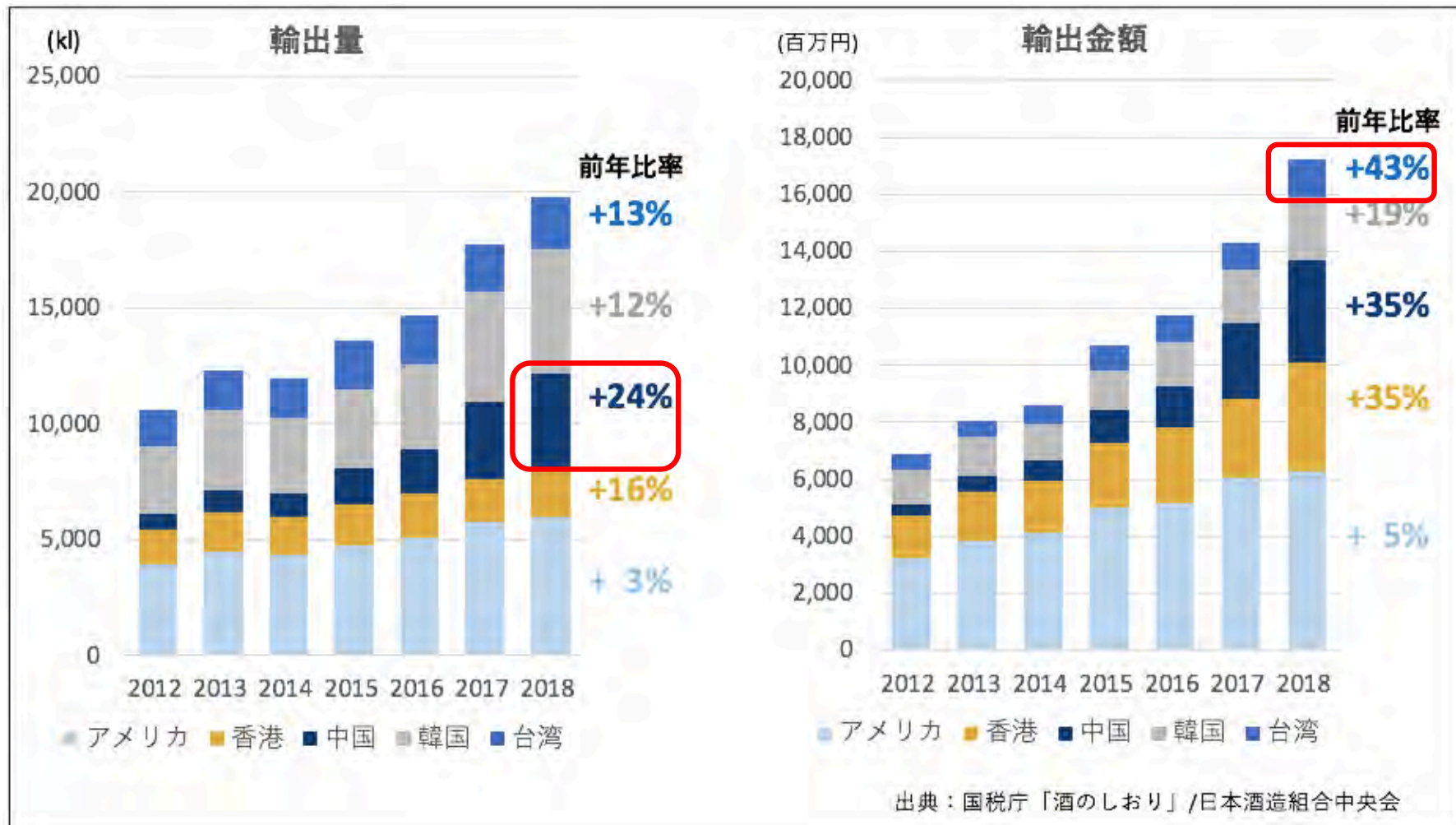
9年連続で輸出が伸長

2019年2月7日に発表された日本酒造組合中央会のレポートによると、輸出は9年連続で増加
特に輸出金額において伸び率が高く9年間で3倍に、輸出量では2倍に伸長



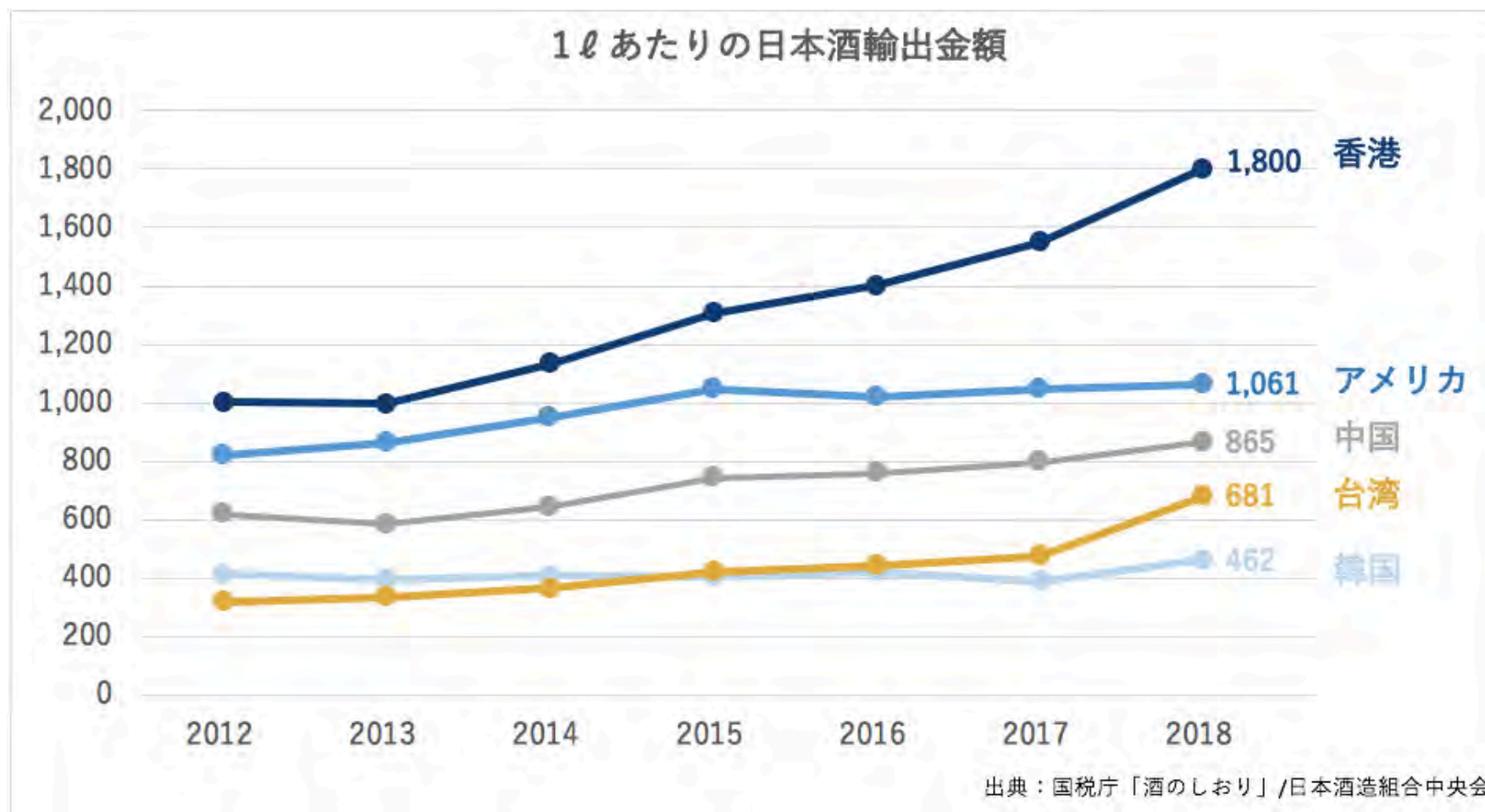
輸出量は中国、輸出金額では台湾が伸長

国別で見ると、輸出量では中国が、輸出金額では香港・中国、特に台湾が大きく増加
アメリカの占める割合は大きいですが、伸び率は穏やか



香港では高価格帯の酒が人気

1リットルあたりの日本酒輸出金額を比較すると
特に香港で、高価格帯市場が盛り上がっていることがわかる



米国で占める現地醸造の割合

輸出量に関する伸び率は、中国が突出して大きい
 米国への輸出量は全体の4分の1を占め、現地醸造を含めると総輸出量を超える

